

## II 研究結果

## II 研究結果

### 1 研究(事業)の目的

千葉県では、県民一人ひとりの状況にあわせた健康づくりを支援する施策「健康生活コーディネート」を展開している。この施策は、市町村等が個人の健康状態のみならず、日常生活の具体的内容を把握した上で、一人ひとりの状況に応じた健康づくりの目標設定と目標達成に向けた行動等を科学的根拠に基づいて提案し、個人の健康づくりを総合的・継続的に支援するものである。

そのため、県では健康生活コーディネートプログラムを開発し、県内4市町の協力を得て実証試験を行い、本プログラムが参加者の体力のみならずQOLの向上にも有効であることが確認した。また、介護予防推進の観点から健康生活コーディネートプログラムの運動プログラム等を活用した介護予防プログラムも開発し、健康生活コーディネートプログラムと同様に体力の向上、QOLの低下防止に本プログラムが有効であることを実証試験で明らかにした。

しかし、介護予防の観点から見ると、近年増加している認知機能の低下を原因とする要介護者の増加に対して、健康生活コーディネートプログラムが有効であるかは明らかではない。

そこで、健康生活コーディネートプログラムの認知機能への短期的な影響を検証することを目的に、実証試験を実施した。

### 2 研究方法

#### (1) 調査対象

##### ア コーディネート事業参加者

我孫子市と千葉県が共同で実施している健康生活コーディネート事業「中高年のための健康サポートクラブ21」への参加者100名に本研究の趣旨を口頭と文書で説明し、82名から文書による協力の承諾を得た。健康サポートクラブ21への参加は申込制（多数の場合は抽選）で、40歳以上の県内在住者であることのほか、メディカルチェックで運動実施を許可された者という条件に該当することが参加条件であった。

健康サポートクラブ21は、月4回（原則毎週水曜日・1回90分）、決まった時間帯に開催される1年間のコースで、固定式自転車や筋力トレーニングなどのITを活用した運動プログラムの実施を中心に展開された。

##### イ コーディネート事業非参加者（対照群）

地域でボランティア活動等をしている団体等を通じて、40歳以上の県内在住者に研究への協力を依頼した。口頭と文書で研究の趣旨を説明し、97名から文書による承諾を得た。

#### (2) 研究方法

##### ア スケジュール

コーディネート事業参加者は、平成19年5月（23日または30日）、10月（17日または31日）、平成20年2月（13日または20日）に、コーディネート事業非参加者は、平成19年6月（19日、20日、7月6日、7日のいずれか）、11月（19日、20日、22日、12月1日のいずれか）、平成20年2月（14日、18日、19日、3月1日のいずれか）に測定を実施した。

## イ 測定ツール

### (ア) コグヘルス (CogHealth)

パソコン上でトランプを用いた5種類のゲーム(タスク)を実施し、その反応速度と正解率から脳の認知機能を判定する測定ツールで、1回の測定は約20~30分である。

タスクは、A:裏向きのトランプが表に返ったら素早くキーを押す(単純反応)、B:表を向いたトランプが赤なら右、黒なら左のキーを素早く押す(選択反応)、C:画面に出ているトランプを記憶し、次のトランプが直前のトランプと同じものなら右、違うものなら左のキーを素早く押す(作動記憶)、D:画面に出てきたトランプは全て記憶し、次のトランプが今までに出てきたものであれば右、初めて出たものであれば左のキーを素早く押す(遅延再生)、E:上下2本のラインの間を5枚のトランプが上下に動くのを注目し、トランプが上下のラインを越えたら素早くキーを押す(分散注意)の5種類で、AからEの順に実施した後、最後にAを再び実施して終了となる。測定時には、対象者2名にインストラクター1名が付き、インストラクターがゲームの実施方法を説明し、一通りの練習をして対象者がタスクを理解したことを確認した後に本番(測定)を行なった。

### (イ) かなひろいテスト

認知症のスクリーニング手法の1つであり、ひらがなだけの文章の中から「あいうえお」の5つの文字を見つけて○をつける作業である。ルールを説明し、短文で練習をした後、課題文について2分間で作業を行なった。

### (ウ) 日常生活に関するアンケート

健康状態や日常生活に関する自記式質問紙調査であり、コーディネート事業参加者には、事前配布し、自宅で記入したものを測定日に回収した。コーディネート事業への非参加者は測定当日、コグヘルス測定終了後に配布し、その場で記入したものを回収した。

設問は、現在の健康状態、現病歴、睡眠、日常生活における人との関わり、趣味、高齢者用抑うつスケール簡易版(15項目)、ライフイベント、物忘れ、脳の健康を意識して実施していることの9問で構成され、該当する回答を1つまたは複数個選択する回答方式とした。

### (エ) 今日の健康状態チェック

コグヘルス測定の終了後に、今日の主観的健康状態、前日の睡眠、自覚症状についての質問紙調査を行った。

## ウ 測定の流れ

測定当日は、研究者が当日の流れを口頭で説明した後、かなひろいテスト、コグヘルスの順に実施し、コグヘルスの終了後に今日の健康チェックシートへの記入を行なった。

コーディネート事業非参加者については、今日の健康チェックシートへの記入時に、日常生活に関するアンケートも実施した。測定に要した時間は、コーディネート事業参加者では30~40分、コーディネート事業への非参加者では40~60分であった。

### 3 分析方法

#### (1) 分析対象者

研究への協力を同意した者（分析対象者）は、コーディネート事業参加者（以下、参加者と呼ぶ）では82名、コーディネート事業非参加者（以下、非参加者と呼ぶ）では97名で、このうち全3回の測定を実施できた者は、参加者69名、非参加者80名であった。

#### (2) 各測定ツールによる測定結果の算出

##### ア コグヘルス

解析プログラムにより、単純反応、選択反応、作動記憶、遅延再生、分散注意の各能力について、平均反応速度（速さ）、正答率（正確さ）、反応速度のバラツキ（一貫性）の得点を、同性・同年齢の人の平均点を100とし、標準偏差が10となるように正規化した値で算出した。「平均」の範囲は、得点が87～113点とし、70点より低い項目が複数ある場合や平均範囲より低い得点項目が6個以上ある場合は、「要注意」と判断した。

また、第1回目の測定値からの変化では、得点変化が8点以内は「変化なし」、8点以上の増加は「改善」、8点以上の低下は「低下」と判断した。

##### イ かなひろいテスト

結果の分析には、正当数を用いた。正当数が年齢階級別の判定値以下の場合は、「認知症の疑いあり」とした。

##### ウ 高齢者用抑うつスケール簡易版

判定方法に従い、各項目の回答に1または0点を配点し、その合計得点を求めた。5点以上を「うつ傾向」、10点以上を「うつ状態」とした。

#### (3) 分析方法

プログラムの前後比較の測定値の変化の分析には、第1回目と第3回目の測定値を用いた。数値データについては、平均値、標準偏差（SD）を算出した。コグヘルス結果と年齢、かなひろいテスト結果と年齢の関係はPearsonの相関係数を求めた。数値データの第1回目と第3回目の比較は、対応のある場合のt検定、コーディネート事業参加者と非参加者の比較はStudentのt検定を行った。カテゴリーデータにおける第1回目結果と第3回目結果、コーディネート事業参加者と非参加者の比較は $\chi^2$ 検定を行った。いずれの場合も、 $p < 0.05$ を有意とした。

結果の分析には、Microsoft Excel 2003およびSPSS for Windows ver14.0Jを用いた。

### 4 研究結果

#### (1) 対象者の測定回数別人数と性・年齢分布

対象者の測定回別の対象者数を表3-1に示した。

測定対象者数は3回合計で延べ181名、うち全3回とも測定に参加した人（「全3回測定者」と呼ぶ）は149名であった。

対象者は男性よりも女性が多く、測定回、参加者・非参加者の別にかかわらず、その男性比率は概ね25～30%であった。

**表 3-1 測定回別の対象者数**

	合計				参加者				非参加者			
	男	女	計	(男性の比率)	男	女	計	(男性の比率)	男	女	計	(男性の比率)
第1回	46	133	179	(25.7%)	22	60	82	(26.8%)	24	73	97	(24.7%)
第2回	41	114	155	(26.5%)	19	53	72	(26.4%)	22	61	83	(26.5%)
第3回	42	114	156	(26.9%)	18	55	73	(24.7%)	24	59	83	(28.9%)
(全3回測定者)	40	109	149	(26.8%)	18	51	69	(26.1%)	22	58	80	(27.5%)

## (2) 第1回測定結果に基づく対象者の特性

### ア 年齢

対象者の第1回測定時の平均年齢は64.7歳 (SD 10.11) で、40歳代から80歳代に分布したが、60歳代以上が全体の70%以上を占めていた。(表3-2)

参加者と非参加者で比較すると、平均年齢は参加者が61.2歳 (SD 6.78)、非参加者が67.6歳 (SD 11.52) で、非参加者の平均年齢は参加者より6歳程度高かった。

年齢構成では、参加者は60歳代が62.2%と約3分の2、50歳代が29.3%、70歳代が6.1%を占め、80歳代はいなかったが、非参加者の年代は40歳代から80歳代までに分布し、60歳代が35.1%、70歳代が25.8%、80歳代が17.5%であった。また、年齢を65歳で2分すると65歳未満の割合は参加者が59.8%、非参加者が37.1%であった。

全3回測定者は参加者69名、非参加者80名で、対象者数は第1回測定時より参加者は13名、非参加者は17名減少していたが、その平均年齢は参加者が61.6歳 (SD 10.01)、非参加者が67.7歳 (SD 11.50) で、平均年齢や年代分布は第1回測定時と大きな違いはなかった。

**表3-2 第1回測定時の対象者の年齢分布**

	合計				参加者				非参加者			
	男 (人)	女 (人)	計 (人)	(%)	男 (人)	女 (人)	計 (人)	(%)	男 (人)	女 (人)	計 (人)	(%)
40歳代	2	9	11	6.1	0	2	2	2.4	2	7	9	9.3
50歳代	1	35	36	20.1	0	24	24	29.3	1	11	12	12.4
60歳代	27	58	85	47.5	19	32	51	62.2	8	26	34	35.1
70歳代	14	16	30	16.8	3	2	5	6.1	11	14	25	25.8
80歳代	2	15	17	9.5	0	0	0	0.0	2	15	17	17.5
(再掲)65歳未満	11	74	85	47.5	6	43	49	59.8	5	31	36	37.1
65歳以上	37	59	96	52.5	16	17	33	40.2	19	42	61	62.9
合計	46	133	179	100	22	60	82	100	24	73	97	100

## イ 健康状態や日常生活の状況

参加者と非参加者の健康状態や日常生活の状況について、第1回目の測定時の回答を比較した。

### (7) 現在の健康状態

現在の健康状態は、参加者、非参加者とも「まあ良い」が最も多く、約7割を占めていた。

参加者に比べて非参加者は「あまり良くない」の割合が高かったが、現在の健康状態の回答には参加者・非参加者に有意差はなかった。

表3-3 現在の健康状態（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
とても良い	6 (27.3)	2 (8.3)	8 (17.4)	11 (18.3)	13 (17.8)	24 (18.0)	17 (20.7)	15 (15.5)	32 (17.9)
まあ良い	16 (72.7)	19 (79.2)	35 (76.1)	42 (70.0)	46 (63.0)	88 (66.2)	58 (70.7)	65 (67.0)	123 (68.7)
あまり良くない	0 (0.0)	3 (12.5)	3 (6.5)	7 (11.7)	14 (19.2)	21 (15.8)	78 (8.6)	17 (17.5)	24 (13.4)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

### (イ) 現在の身体機能

現在の自分の身体機能を同年代の人と比べた評価では、参加者の91.4%、非参加者の82.5%が「とても良い」「まあ良い」と回答しており、参加者の方が非参加者よりも評価が良かったが、回答に有意差はなかった。

表3-4 現在の自分の身体機能を同年代の人と比べた評価（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
とても良い	4(18.2)	1(4.2)	5(10.9)	7(11.7)	11(15.1)	18(13.5)	11(13.4)	12(12.4)	23(12.8)
まあ良い	18(81.8)	19(79.2)	37(80.4)	46(76.7)	49(67.1)	95(71.4)	64(78.0)	68(70.1)	132(73.7)
あまり良くない	0	4(16.7)	4(8.7)	6(10.0)	11(15.1)	17(12.8)	6(7.3)	15(15.5)	21(11.7)
良くない	0	0	0	1(1.6)	2(2.7)	3(1.3)	1(1.2)	2(2.0)	3(1.7)
合計	22(100)	24(100)	46(100)	60(100)	73(100)	133(100)	82(100)	97(100)	179(100)

### (ウ) 現在の治療状況

現在の病気や障害についての状況では、「病気や障害がない」割合は参加者45.9%、非参加者30.9%、「現在、治療中」は参加者60.8%、非参加者49.7%であり、参加者と非参加者の回答には有意差がみられた。

表3-5 現在の治療状況（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
病気や障害なし	5 (22.7)	7 (29.2)	12 (26.1)	32 (53.3)	23 (31.5)	55 (41.4)	37 (45.9)	30 (30.9)	67 (37.4)
治療は必要ない	3 (13.6)	0 (0.0)	3 (6.5)	10 (16.3)	5 (6.8)	15 (11.3)	13 (15.9)	5 (5.2)	18 (10.1)
治療中断	1 (4.5)	2 (8.3)	3 (6.5)	1 (1.7)	1 (1.4)	2 (1.5)	2 (2.4)	3 (3.1)	5 (2.8)
治療中	13 (59.1)	15 (62.5)	28 (60.9)	17 (28.3)	44 (60.3)	61 (45.8)	30 (36.6)	59 (60.8)	89 (49.7)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

### (イ) 睡眠の状況

「夜なかなか寝付けけない」、「夜中に何度も目が覚める」、「朝起きたときに熟睡感がない」について、問題（悩み）になっているかどうかを尋ねたところ、「問題になっている」と回答した者の割合は、参加者と非参加者に有意差はなかった。

表3-6 睡眠の状況（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
夜、なかなか寝付けけない	4 (18.2)	4 (17.4)	8 (17.8)	9 (15.0)	12 (16.4)	2 (15.8)	13 (15.9)	16 (16.7)	29 (16.3)
回答総数	22 (100)	23 (100)	45 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	96 (100)	178 (100)
夜中に何度も目が覚める	8 (36.4)	7 (29.2)	15 (32.6)	18 (30.5)	19 (26.4)	37 (28.2)	26 (32.1)	26 (27.1)	52 (29.4)
回答総数	22 (100)	24 (100)	46 (100)	59 (100)	72 (100)	131 (100)	81 (100)	96 (100)	177 (100)
朝起きたときに熟睡感がない	5 (22.7)	5 (21.7)	10 (22.2)	12 (20.0)	16 (21.9)	28 (21.1)	17 (20.7)	21 (21.9)	38 (21.3)
回答総数	22 (100)	23 (100)	45 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	96 (100)	178 (100)

### (オ) 1日に歩く時間

1日に歩く時間は、参加者、非参加者とも30～60分が最も多くなっていた。非参加者は参加者よりも30分未満の回答が多かったが、両者の回答に有意差はなかった。

表3-7 1日に歩く時間（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者	非参加者	合計	参加者	非参加者	合計	参加者	非参加者	合計
	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)
30分未満	2(9.1)	4(16.7)	6(13.0)	8(13.3)	21(28.8)	29(21.8)	10(12.2)	25(25.8)	35(19.6)
30～60分	8(36.4)	14(58.3)	22(47.8)	33(55.0)	27(37.0)	60(45.1)	41(50.0)	41(42.3)	82(45.8)
60～90分	8(36.4)	4(16.7)	12(26.1)	14(23.3)	17(23.3)	31(23.3)	22(26.8)	21(21.6)	43(24.0)
90分以上	4(18.2)	2(8.3)	6(13.0)	5(8.3)	8(11.0)	13(9.8)	9(11.0)	10(10.3)	19(10.6)
合計	22(100)	24(100)	46(100)	60(100)	73(100)	133(100)	82(100)	97(100)	179(100)

**(カ) 家事の実施・家事以外の家庭の役割・収入のある仕事**

家事の実施については、参加者の74.4%、非参加者の66.0%が「中心で実施」しており、「ほとんどしない」、「しない」の回答は非参加者の方が多かったが、両者の回答に有意差はなかった。

男女で比べると、女性は「中心で実施」が最も多く8割以上であったが、男性では「時々手伝う」が最も多く、6割前後を占めていた。家事以外の家庭の役割では、参加者に比べて非参加者の方が「役割がある」と回答した者が多かった。

また、「収入のある仕事をしている」割合は、全体では参加、非参加者とも約3割で、差はなかったが、性・年代別に見ると、男性の65歳未満では参加者の方が非参加者よりも就業者は多かった。

表3-8 家事をどの程度実施しているか（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者	非参加者	合計	参加者	非参加者	合計	参加者	非参加者	合計
	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)	度数(%)
中心で実施	2 (9.1)	3 (12.5)	5 (10.9)	59 (98.3)	61 (83.6)	120 (90.2)	61 (74.4)	64 (66.0)	125 (69.8)
時々手伝う	14 (63.6)	13 (54.2)	27 (58.7)	1 (1.7)	6 (8.2)	7 (5.3)	15 (18.3)	19 (19.6)	34 (19.0)
ほとんどしない	5 (22.7)	5 (20.8)	10 (21.7)	0 (0.0)	5 (6.8)	5 (3.8)	5 (6.1)	10 (10.3)	15 (8.4)
しない	1 (4.5)	3 (12.5)	4 (8.7)	0 (0.0)	1 (1.4)	1 (0.8)	1 (1.2)	4 (4.1)	5 (2.8)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

**(キ) 別居の家族や親戚と連絡を取り合う機会(表3-9)**

別居の家族や親戚と連絡を取り合う機会では、参加者では月1回程度が30.9%と最も多く、「週2～3回」、「週1回程度」が約2割であったが、非参加者では「ほとんど毎日」、「週2～3回」、「週1回程度」、「月1回程度」が各々約2割であり、参加者より非参加者の方が連絡を取り合う頻度が高い傾向が見られたが、有意差はなかった。



表3-9 別居の家族や親戚と連絡を取り合う機会（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
ほとんど毎日	2 (9.5)	2 (8.3)	4 (8.9)	5 (8.3)	18 (24.7)	23 (17.3)	7 (8.6)	20 (20.6)	27 (15.2)
週2～3回	2 (9.5)	1 (4.2)	3 (6.7)	13 (21.7)	20 (27.4)	33 (24.8)	15 (18.5)	21 (21.6)	36 (20.2)
週1回程度	2 (9.5)	3 (12.5)	5 (11.1)	16 (26.7)	15 (20.5)	31 (23.3)	18 (22.2)	18 (18.6)	36 (20.2)
月1～2回	9 (42.9)	8 (33.3)	17 (37.8)	16 (26.7)	12 (16.4)	28 (21.1)	25 (30.9)	20 (20.6)	45 (25.3)
年に数回	4 (19.0)	6 (25.0)	10 (22.2)	8 (13.3)	6 (8.2)	14 (10.5)	12 (14.8)	12 (12.4)	24 (13.5)
ほとんどない	1 (4.8)	4 (16.7)	5 (11.1)	2 (3.3)	2 (2.7)	4 (3.0)	3 (3.7)	6 (6.2)	9 (5.1)
別居の家族や 親戚はいない	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (2.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	0 (0.0)	1 (0.6)
合計	21 (100)	24 (100)	45 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	81 (100)	97 (100)	178 (100)

(ク) 友人と連絡を取り合う機会(表3-10)

友人と連絡を取り合う機会では、参加者は「週2～3回」、「週1回程度」が各3割程度が多かった。非参加者では「ほとんど毎日」が37.1%、「週2～3回」25.8%、「週1回程度」22.7%と参加者に比べて友人との連絡頻度が高く、有意差が見られた。

表3-10 友人と連絡を取り合う機会（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
ほとんど毎日	2 (9.1)	8 (33.3)	10 (21.7)	10 (16.7)	28 (38.4)	38 (28.6)	12 (14.6)	36 (37.1)	48 (26.8)
週2～3回	5 (22.7)	5 (20.8)	10 (21.7)	22 (36.7)	20 (27.4)	42 (31.6)	27 (32.9)	25 (25.8)	52 (29.1)
週1回程度	7 (31.8)	4 (16.7)	11 (23.9)	16 (26.7)	18 (24.7)	34 (25.6)	23 (28.0)	22 (22.7)	45 (25.1)
月1～2回	2 (9.1)	4 (16.7)	6 (13.0)	5 (8.3)	5 (6.8)	10 (7.5)	7 (8.5)	9 (9.3)	16 (8.9)
年に数回	5 (22.7)	3 (12.5)	8 (17.4)	5 (8.3)	1 (1.4)	6 (4.5)	10 (12.2)	4 (4.1)	14 (7.8)
ほとんどない	1 (4.5)	0 (0.0)	1 (2.2)	2 (3.3)	0 (0.0)	2 (1.5)	3 (3.7)	0 (0.0)	3 (1.7)
友人はいない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.4)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (1.0)	1 (0.6)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

### (ケ) ふだん外出する頻度

ふだん外出する頻度は、「ほとんど毎日」が参加者76.8%、非参加者67.0%で最も多く、「ほとんど外出しない」の該当者は参加者、非参加者共にいなかった。

表3-11 ふだん外出する頻度（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
ほとんど毎日	18 (81.8)	19 (79.2)	37 (80.4)	45 (75.0)	46 (63.0)	91 (68.4)	63 (76.8)	65 (67.0)	128 (71.5)
週2～3回	3 (13.6)	4 (16.7)	7 (15.2)	13 (21.7)	23 (31.5)	36 (27.1)	16 (19.5)	27 (27.8)	43 (24.0)
週1回程度	1 (4.5)	1 (4.2)	2 (4.3)	2 (3.3)	4 (5.5)	6 (4.5)	3 (3.7)	5 (5.2)	8 (4.5)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

### (コ) 同居者の有無

同居者の有無の状況では、「一人暮らし」の割合は参加者に比べて非参加者の方が多く、「配偶者と同居」の割合は、参加者の方が非参加者より有意に多かった。

表3-12 同居者の状況（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
一人暮らし	0 (0.0)	6 (25.0)	6 (13.0)	3 (5.0)	14 (19.2)	17 (12.8)	3 (3.7)	20 (20.6)	23 (12.8)
配偶者	21 (95.5)	17 (70.8)	38 (82.6)	55 (91.7)	45 (61.6)	100 (75.2)	76 (92.7)	62 (63.9)	138 (77.1)
子ども	8 (36.4)	5 (20.8)	13 (28.3)	28 (46.7)	37 (50.7)	65 (48.9)	36 (43.9)	42 (43.3)	78 (43.6)
子どもの配偶者	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.3)	4 (5.5)	6 (4.5)	2 (2.4)	4 (4.1)	6 (3.4)
孫・ひ孫	0 (0.0)	1 (4.2)	1 (2.2)	1 (1.7)	6 (8.2)	7 (5.3)	1 (1.2)	7 (7.2)	8 (4.5)
自分や配偶者の親	1 (4.5)	1 (4.2)	2 (4.3)	2 (3.3)	4 (5.5)	6 (4.5)	3 (3.7)	5 (5.2)	8 (4.5)
自分や配偶者の兄弟姉妹	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.3)	0 (0.0)	2 (1.5)	2 (2.4)	0 (0.0)	2 (1.1)
その他	1 (4.5)	1 (4.2)	2 (4.3)	1 (1.7)	0 (0.0)	1 (0.8)	2 (2.4)	1 (1.0)	3 (1.7)
合計	22 (100)	24 (100)	46 (100)	60 (100)	73 (100)	133 (100)	82 (100)	97 (100)	179 (100)

## (サ) 趣味

趣味の有無については、参加者、非参加者ともに9割以上が持っているとは回答していた。

その内容を見ると、参加者は非参加者に比べてスポーツ的活動、ドライブや旅行の回答率が高かったが、有意差はなかった。男女別の回答を見ると、男性では株式投資・パチンコ・競馬等の割合が女性より多く、女性では音楽的活動が男性より多かった。

表3-13 趣味の有無とその内容（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
趣味がある	22 (100)	22 (91.7)	44 (95.7)	57 (95.0)	67 (93.1)	124 (93.9)	79 (96.3)	89 (92.7)	168 (94.4)
<内容(複数回答)>									
スポーツ的活動	19 (86.4)	11 (50.0)	30 (68.2)	38 (66.7)	35 (52.2)	73 (58.8)	57 (72.2)	46 (51.7)	103 (61.3)
文化的活動	13 (59.1)	14 (63.6)	27 (61.4)	32 (56.1)	24 (35.8)	56 (45.2)	45 (57.0)	38 (42.7)	83 (49.4)
音楽的活動	3 (13.6)	6 (27.3)	9 (20.5)	21 (36.8)	22 (32.8)	43 (34.6)	24 (30.4)	28 (31.5)	52 (31.0)
創作的活動	8 (36.4)	8 (36.4)	16 (36.4)	23 (40.4)	19 (28.4)	42 (33.8)	31 (39.2)	27 (30.3)	58 (34.5)
園芸・動物 飼育・自然 散策等	12 (54.5)	10 (45.5)	22 (50.0)	30 (52.6)	36 (53.7)	66 (53.2)	42 (53.2)	46 (51.7)	88 (52.4)
テレビ・ラジ オ等	12 (54.5)	6 (27.3)	18 (40.9)	22 (38.6)	33 (49.3)	55 (44.4)	34 (43.0)	39 (43.8)	73 (43.5)
ドライブ・旅 行等	14 (63.6)	7 (31.2)	21 (47.7)	31 (54.4)	30 (44.8)	61 (49.2)	45 (57.0)	37 (41.6)	82 (48.8)
株式投資・ パチンコ・ 競馬等	6 (27.3)	3 (13.6)	9 (20.5)	4 (7.0)	5 (7.5)	9 (7.3)	10 (12.7)	8 (9.0)	18 (10.7)
その他	1 (4.5)	2 (9.1)	3 (6.8)	5 (8.8)	7 (10.4)	12 (9.7)	6 (7.6)	9 (10.1)	15 (8.9)
趣味がある 者の合計	22 (100)	22 (100)	44 (100)	57 (100)	67 (100)	124 (100)	79 (100)	89 (100)	168 (100)

## (シ) 会や組織への参加

会や組織への参加状況では、「参加していない」割合は参加者・非参加者とも13%程度で、差はなかった。入っている団体の種類では、参加者では「趣味の会」、「スポーツ関係のグループ・クラブ」への参加が多く、非参加者では「ボランティア団体」、「市民運動・消費者運動」、「町内会・老人クラブ」への参加が多かった。

表3-14 会や組織への参加状況（複数回答）（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
政治関係の会や団体	0(0.0)	1(4.2)	1(2.2)	1(1.7)	0(0.0)	1(0.8)	1(1.3)	1(1.0)	2(1.1)
業界団体・同業団体	1(4.5)	1(4.2)	2(4.3)	0(0.0)	1(1.4)	1(0.8)	1(1.3)	2(2.1)	3(1.7)
ボランティア団体	3(13.6)	14(58.3)	17(37.0)	16(27.6)	26(36.1)	42(32.3)	19(23.8)	40(41.7)	59(33.5)
市民運動・消費者運動	2(9.1)	4(16.7)	6(13.0)	2(3.4)	10(13.9)	12(9.2)	4(5.0)	14(14.6)	18(10.2)
宗教団体や会	1(4.5)	0(0.0)	1(2.2)	1(1.7)	4(5.6)	5(3.8)	2(2.5)	4(4.2)	6(3.4)
趣味の会	7(31.8)	6(25.0)	13(28.3)	29(50.0)	27(37.5)	56(43.1)	36(45.0)	33(34.4)	69(39.2)
スポーツ関係のグループ	10(45.5)	5(20.8)	15(32.6)	23(39.7)	16(22.2)	39(30.0)	33(41.3)	21(21.9)	54(30.7)
町内会・老人クラブなど	5(22.7)	11(45.8)	16(34.8)	7(12.1)	17(23.6)	24(18.5)	12(15.0)	28(29.2)	40(22.7)
その他の会や組織	5(22.7)	3(12.5)	8(17.4)	5(8.6)	11(15.3)	16(12.3)	10(12.5)	14(14.6)	24(13.6)
会や組織に入っていない	4(18.2)	3(12.5)	7(15.2)	7(12.1)	10(13.9)	17(13.1)	11(13.8)	13(13.5)	24(13.6)
合計	22(100)	24(100)	46(100)	58(100)	72(100)	130(100)	80(100)	96(100)	176(100)

### (ス) うつ傾向

問5は高齢者うつスケール（Geriatric Depression Scale）簡易版の設問であったため、15項目の回答を得点化してスケールの得点を求め、その判定基準により「うつ傾向なし」「うつ傾向」「うつ状態」に分類した。

全体では「うつ傾向なし」が7割以上であり、「うつ傾向」「うつ状態」の割合は参加者に比べて非参加者の方が多かったが、有意差はなかった。

表3-15 高齢者うつスケールによる、うつ傾向判定（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
うつ傾向なし	17(77.3)	16(69.6)	33(73.3)	44(81.5)	50(71.4)	94(75.8)	61(80.3)	66(71.0)	127(75.1)
うつ傾向	4(18.2)	4(17.4)	8(17.8)	10(18.5)	18(25.7)	28(22.6)	14(18.4)	22(23.7)	36(21.3)
うつ状態	1(4.5)	3(13.0)	4(8.9)	0(0.0)	2(2.9)	2(1.6)	1(1.3)	5(5.4)	6(3.6)
合計	22(100)	23(100)	45(100)	54(100)	70(100)	124(100)	76(100)	93(100)	169(100)

### (ス) ライフイベント

半年以内に起こったライフイベントでは「仕事からの引退」が、参加者の方が非参加者より多く、特に男性の参加者に該当者が多かった。「配偶者の死亡」は、非参加者の女性のみに見られた。

「親しい親類・家族・友人の死亡」は、参加者、非参加者とも最も該当者の多いライフイベントで

あり、その該当率では参加者よりも非参加者の方が高かった。「大きな病気や大きな怪我をした」割合も、参加者に比べて非参加者の方が高かった。「引越しなどにより住む環境が変わった」のは、非参加者の女性が最も多く6名であった。「経済的困難が増した」との回答は、男性より女性、参加者より非参加者に該当するとの回答が多かったが、該当者は少なかった。「家族の介護を始めた」割合も、参加者より非参加者が多かった。

いずれのライフイベントの該当状況にも参加者と非参加者の間に差は見られたが、有意ではなかった。

**表3-16 半年間に起こったライフイベント（第1回測定時）**

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
仕事から引退した	6(28.6)	1(4.2)	7(15.6)	2(3.3)	4(5.6)	6(4.5)	8(9.9)	5(5.2)	13(7.3)
配偶者がなくなった	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	0(0.0)	6(8.2)	6(8.2)	0(0.0)	6(6.2)	6(3.4)
親しい親類・家族・友人の死亡	5(22.7)	6(25.0)	11(23.9)	10(16.7)	22(30.1)	32(24.1)	15(18.3)	28(28.9)	43(24.0)
大病・大怪我をした	1(4.5)	4(16.7)	5(10.9)	7(11.7)	13(17.8)	20(15.0)	8(9.8)	17(17.5)	25(14.0)
引越しなど住む環境が変わった	1(4.5)	0(0.0)	1(2.2)	0(0.0)	6(8.2)	6(4.5)	1(1.2)	6(6.2)	7(3.9)
経済的困難が増した	0(0.0)	2(8.3)	2(4.3)	1(1.7)	3(4.2)	4(3.1)	1(1.2)	5(5.3)	6(3.4)
家族の介護を始めた	1(4.5)	2(8.3)	3(6.5)	4(6.8)	7(9.6)	11(8.3)	5(6.2)	9(9.3)	14(7.9)

### (セ) 日常生活における脳の健康に関する事柄

「今までに脳の健康チェックや脳ドックを受けたことがある」への回答は、参加者の男性の3割（7名）が回答していたが、全体では参加者と非参加者に有意差はなかった。

「持ち物を置き忘れて困ることがしばしばある」、「時間や場所を取り違えることがしばしばある」、「つい最近の事が思い出せない」のそれぞれの該当率は参加者より非参加者の方が高く、「持ち物を置き忘れて困ることがしばしばある」、「時間や場所をとり間違えることがしばしばある」は、その差が有意だった。

「脳の健康のために日常生活の中で実践していることがある」者は、参加者よりも非参加者に多かったが、有意差はなかった。実践している内容（複数回答）では、参加者では「適度な運動」の回答が89.2%と最も多く、次いで「外出する」であった。

非参加者では「人と話をする」が74.0%で最も多く、「バランスの取れた食事」「適度な運動」が各70.0%で続いていた。

表3-17 日常生活における脳の健康に関する事柄（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
脳の健康チェックや脳ドックの受診	7 (31.8)	0 (0.0)	7 (15.2)	8 (13.3)	11 (15.1)	19 (14.3)	15 (18.3)	11 (11.3)	26 (14.5)
持ち物を置き忘れて困ることがしばしばある	5 (23.8)	13 (54.2)	18 (40.0)	9 (15.3)	23 (31.9)	32 (24.4)	14 (17.5)	36 (37.5)	50 (28.4)
時間や場所を取り違えることがしばしばある	0 (0.0)	7 (30.4)	7 (15.9)	2 (3.3)	6 (8.2)	8 (6.0)	2 (2.5)	13 (13.5)	15 (8.5)
つい最近のことが思い出せない	5 (22.7)	9 (39.1)	14 (31.1)	9 (15.0)	9 (12.5)	18 (13.6)	14 (17.1)	18 (18.9)	32 (18.1)

表3-18 脳の健康のために日常生活で実践していることの有無とその内容（第1回測定時）

	男			女			合計		
	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)	参加者 度数(%)	非参加者 度数(%)	合計 度数(%)
脳の健康のために日常で何かを実践している	8 (36.4)	11 (45.8)	19 (41.3)	29 (48.3)	39 (54.2)	68 (51.5)	37 (45.1)	50 (52.1)	87 (48.9)
<実践している内容>									
規則正しい生活	5 (62.5)	9 (81.8)	14 (73.7)	16 (55.2)	24 (61.5)	40 (58.8)	21 (56.8)	33 (66.0)	54 (62.1)
バランスの取れた食事	4 (50.0)	7 (63.6)	11 (57.9)	20 (69.0)	28 (71.8)	48 (70.6)	24 (64.9)	35 (70.0)	59 (67.8)
適度な運動	8 (100)	8 (72.7)	16 (84.2)	25 (86.2)	27 (69.2)	52 (76.5)	33 (89.2)	35 (70.0)	68 (78.2)
十分な睡眠	3 (37.5)	2 (18.2)	5 (26.3)	16 (55.2)	25 (64.1)	41 (60.3)	19 (51.4)	27 (54.0)	46 (52.9)
外出する	7 (87.5)	5 (45.5)	12 (63.2)	19 (65.5)	30 (76.9)	49 (72.1)	26 (70.3)	35 (70.0)	61 (70.1)
定期的に健診を受ける	6 (75.0)	1 (9.0)	7 (36.8)	9 (31.0)	19 (48.7)	28 (41.2)	15 (40.5)	20 (40.0)	35 (40.2)
人と話をする	4 (50.0)	5 (45.5)	9 (47.4)	19 (65.5)	32 (82.1)	51 (75.0)	23 (62.2)	37 (74.0)	60 (69.0)
新しいことに挑戦する	4 (50.0)	1 (9.0)	5 (26.3)	12 (41.4)	15 (38.5)	27 (39.7)	16 (43.2)	16 (32.0)	32 (36.8)
脳トレのゲーム等を行なう	2 (25.0)	2 (18.2)	4 (21.1)	13 (44.8)	13 (33.3)	26 (38.2)	15 (40.5)	15 (30.0)	30 (34.5)
その他	2 (25.0)	3 (27.3)	5 (26.3)	2 (6.9)	5 (12.8)	7 (10.3)	4 (10.8)	8 (16.0)	12 (13.8)
合計	8 (100)	11 (100)	19 (100)	29 (100)	39 (100)	68 (100)	37 (100)	50 (100)	87 (100)

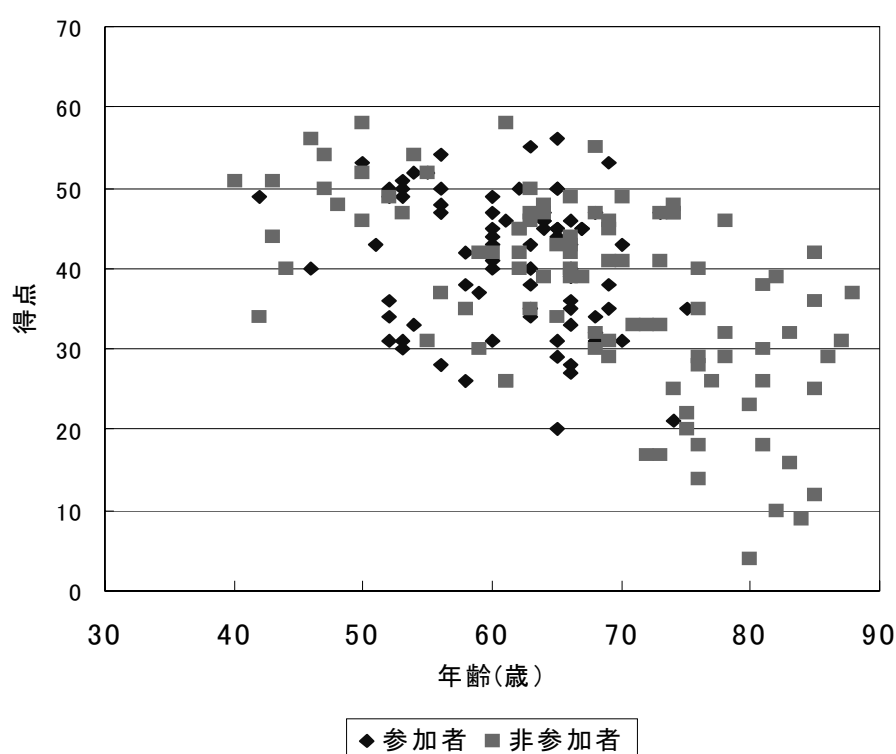
### (3) 第1回測定の検査結果

#### ア かなひろいテスト

かなひろいテストの平均点は、対象者全体では39.0点 (SD 10.6) であったが、参加者と非参加者の得点をみると、参加者は41.3点 (SD 8.3)、非参加者は37.0点 (SD 11.9) であり、参加者が有意に高かった。

参加者と非参加者に年齢の違いがあったため、年齢とかなひろいテストの得点分布をプロットしたところ年齢との間に有意な負の相関関係 ( $r = -0.53$ ) が認められた。

図3-1 年齢とかなひろいテストの得点



#### イ コグヘルス

##### (7) スコアの参加者と非参加者の比較

第1回測定時のコグヘルスのスコアを参加者と非参加者で比較した結果を、図3-2と表3-19に示した。参加者、非参加者ともに、平均値が100点 (同年代と同じレベル) を下回った項目は「速さ：注意力」と「正確さ：少し前の記憶」の2項目、非参加者のみ100点を下回った項目は「速さ：少し前の記憶」「正確さ：すぐ前の記憶」であった。

両者とも一貫性では100点を下回った項目はなかった。「速さ：すぐ前の記憶」「速さ：注意力」「正確さ：決断力」「正確さ：すぐ前の記憶」の得点において、参加者の方が非参加者より有意に高かった。

しかし、その他の項目では有意差はなかった。

図3-2 参加者と非参加者のコグヘルスのスコア平均値

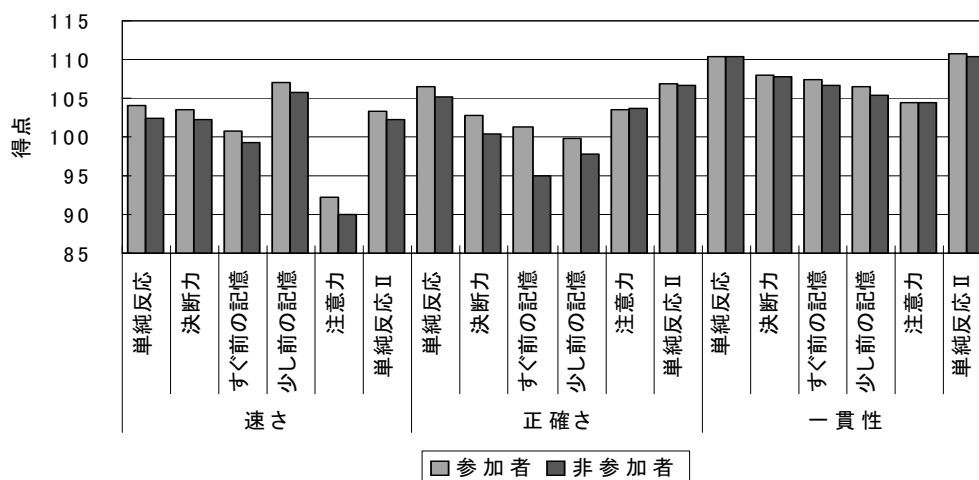


表3-19 コグヘルスのスコアの参加者と非参加者の比較

		参加者			非参加者			有意確率
		度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	
速さ	単純反応	82	104.0	5.1	97	102.4	5.9	
	決断力	82	103.5	4.9	97	102.3	4.3	
	すぐ前の記憶	82	100.8	5.2	97	99.2	5.4	*
	少し前の記憶	82	107.0	8.2	97	105.6	9.3	
	注意力	82	92.2	4.6	97	90.1	6.9	*
	単純反応II	82	103.3	5.1	97	102.1	4.7	
正確さ	単純反応	82	106.4	4.1	97	105.1	5.1	
	決断力	82	102.9	4.8	97	100.3	5.4	*
	すぐ前の記憶	82	101.2	8.6	97	95.0	13.1	
	少し前の記憶	82	99.9	7.8	97	97.7	7.2	*
	注意力	82	103.5	8.0	97	103.7	7.5	
	単純反応II	82	106.8	3.3	97	106.6	3.0	
一貫性	単純反応	82	110.4	2.8	97	110.3	2.7	
	決断力	82	108.0	2.1	97	107.8	2.3	
	すぐ前の記憶	82	107.3	1.8	97	106.7	2.7	
	少し前の記憶	82	106.5	4.5	97	105.4	4.7	
	注意力	82	104.4	3.9	97	104.4	3.4	
	単純反応II	82	110.8	2.3	97	110.4	2.5	

\* :  $p < 0.05$

### イ スコアと性別の関係

コグヘルスの各スコアと性別の関係を見たところ、「速さ：注意力」「一貫性：少し前の記憶」の得点が男性は女性より有意に高かったが、その他の項目には男女差はなかった。



図3-3 コゲヘルスのスコア平均値の男女比較

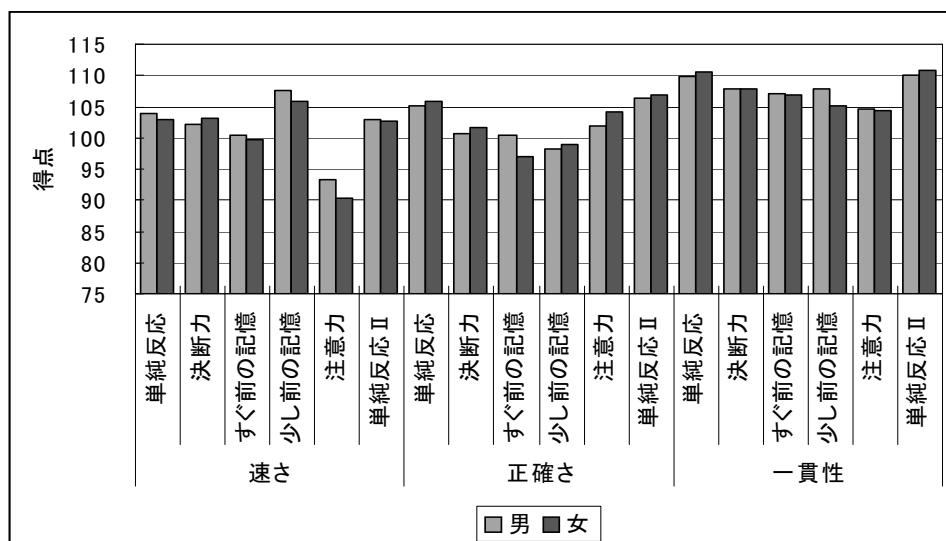


表3-20 コゲヘルスのスコアの男女比較

\* :  $p < 0.05$

		男			女			有意確率
		度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	
速さ	単純反応	46	103.9	4.7	133	102.9	5.9	
	決断力	46	102.1	3.9	133	103.1	4.9	
	すぐ前の記憶	46	100.3	5.0	133	99.8	5.5	
	少し前の記憶	46	107.7	7.4	133	105.8	9.2	
	注意力	46	93.3	5.9	133	90.3	5.9	*
	単純反応II	46	102.9	5.4	133	102.6	4.7	
正確さ	単純反応	46	105.2	5.4	133	105.9	4.4	
	決断力	46	100.8	5.2	133	101.7	5.3	
	すぐ前の記憶	46	100.3	10.7	133	97.0	11.9	
	少し前の記憶	46	98.3	7.2	133	98.8	7.7	
	注意力	46	102.0	8.1	133	104.2	7.5	
	単純反応II	46	106.4	3.2	133	106.8	3.1	
一貫性	単純反応	46	109.7	2.6	133	110.5	2.8	
	決断力	46	107.8	2.3	133	107.9	2.2	
	すぐ前の記憶	46	107.2	2.0	133	106.9	2.4	
	少し前の記憶	46	107.9	4.1	133	105.2	4.6	*
	注意力	46	104.5	2.9	133	104.3	3.9	
	単純反応II	46	110.1	2.6	133	110.7	2.4	

## ウ 測定日の健康状態とコグヘルスのスコア

コグヘルスのスコアと測定日に行った健康チェックシートの「今日の健康状態」との関連を検討したところ、当日の自覚的健康状態とスコアの間には「正確さ：すぐ前の記憶」においてのみ健康状態が「とても良い」群の得点が「あまり良くない」群の得点より有意に高かったが、その他の項目については、健康状態と得点の間には有意差はなかった。

「昨夜はよく眠れたかどうか」とコグヘルスのスコアとの関連を検討したところ、「正確さ：注意力」において、「よく眠れた」群が「眠れなかった」群よりも有意に得点が高かったが、その他の項目には有意差はみられなかった。また、高齢者うつスケールの判定（「うつ傾向なし」「うつ傾向」「うつ状態」）とコグヘルスのスコアの間にも関連はみられなかった。

表3-21 測定日の健康状態とコグヘルスのスコア

		とても良い			まあよい			あまり良くない			合計		
		度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差	度数	平均値	標準偏差
速さ	単純反応	38	103.4	7.4	114	103.0	5.0	26	103.6	5.3	178	103.2	5.6
	決断力	38	102.9	4.5	114	102.6	4.7	26	103.7	4.9	178	102.8	4.7
	すぐ前の記憶	38	99.6	5.2	114	100.1	5.3	26	100.0	5.7	178	99.9	5.3
	少し前の記憶	38	104.2	7.9	114	106.5	9.2	26	108.2	8.1	178	106.3	8.8
	注意力	38	90.3	5.9	114	91.1	6.0	26	92.2	6.5	178	91.1	6.0
	単純反応Ⅱ	38	103.2	4.7	114	102.7	5.0	26	102.1	5.0	178	102.7	4.9
正確さ	単純反応	38	105.1	4.9	114	106.0	4.8	26	105.8	3.6	178	105.8	4.6
	決断力	38	101.5	4.2	114	101.7	5.6	26	100.5	5.7	178	101.5	5.3
	すぐ前の記憶	38	102.1	12.6	114	97.5	11.5	26	93.7	8.9	178	97.9	11.6
	少し前の記憶	38	100.3	8.1	114	98.8	7.4	26	96.3	6.8	178	98.8	7.6
	注意力	38	103.2	6.6	114	104.0	8.0	26	102.8	8.1	178	103.7	7.7
	単純反応Ⅱ	38	106.6	3.2	114	106.6	3.4	26	107.3	1.7	178	106.7	3.2
一貫性	単純反応	38	110.7	2.4	114	110.0	2.8	26	111.3	2.6	178	110.3	2.7
	決断力	38	108.1	2.1	114	108.0	2.1	26	107.2	2.8	178	107.9	2.2
	すぐ前の記憶	38	107.3	1.7	114	107.0	2.5	26	106.6	1.9	178	107.0	2.3
	少し前の記憶	38	105.0	4.7	114	106.2	4.6	26	105.7	4.7	178	105.9	4.7
	注意力	38	104.5	3.1	114	104.5	3.6	26	103.5	4.4	178	104.3	3.6
	単純反応Ⅱ	38	110.2	2.4	114	110.7	2.4	26	110.7	2.5	178	110.6	2.4

## エ スコアと年齢の関係

コグヘルスの各スコアは、同年代の平均値を100点とした場合の相対値となっているが、本対象は年齢が幅広く分布しているため、年齢と各スコアの相関について検討した。

表3-22に示すように、年齢とコグヘルスのスコアは、「正確さ：注意力」、「一貫性：少し前の記憶」、「一貫性：注意力」を除き全て負の有意な相関関係を示し、年齢が高くなると各スコアが低下する傾向があるということが考えられるが、相関係数の絶対値は0.4未満が大部分であり、強い相関があるとは言えなかった。

表3-22 コゲヘルスのスコアと年齢の相関関係

		単純反応	決断力	すぐ前の記憶	少し前の記憶	注意力	単純反応Ⅱ
速さ	相関係数	-0.249	-0.355	-0.367	-0.354	-0.401	-0.202
	有意確率	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000	0.007
正確さ	相関係数	-0.334	-0.321	-0.522	-0.242	-0.113	-0.360
	有意確率	0.000	0.000	0.000	0.001	0.133	0.000
一貫性	相関係数	-0.162	-0.163	-0.207	-0.083	0.071	-0.335
	有意確率	0.031	0.030	0.005	0.269	0.343	0.000

図3-4 「速さ：単純反応」得点と年齢

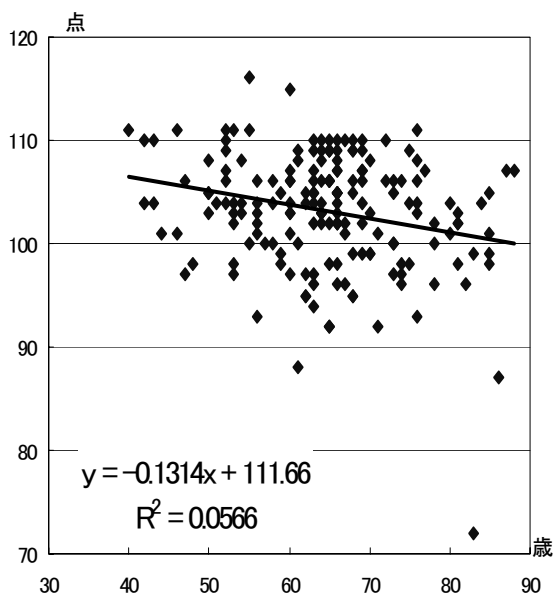


図3-5 「正確さ：すぐ前の記憶」と年齢

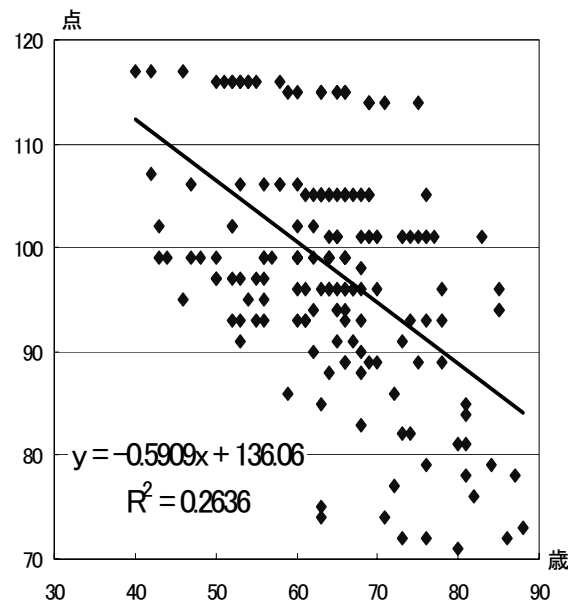


図3-6 「一貫性：注意力」と年齢

